



平和記念公園(広島市中区)にある原爆資料館には2013年度、これまでで最も多い約20万人の外国人が入館しました。広島県への外国人観光客数は13年、過去最高の延べ約84万3千人でした。

確かに広島は街中で多くの外国人を見かけます。外国人、特にジュニアライターと同時代の留学生は、広島が受けた原爆被害や街の現状をどう見ているのでしょうか。昨年3、4月に広島に来て、地元の高校に通う留学生6人と、ヒロシマと平和について日本語で語り合いました。

来日前、歴史の授業で原爆投下の事実しか学んでいない留学生が多いのが現実でした。しかし、広島は復興への驚きを口にした人、原爆資料館に6回も行った人もいます。平和な世界を望む思いは「一緒」ということと分かれました。

異文化交流・理解の大切さとともに、今後ヒロシマをいかに伝えていくかという課題も見えてきました。

△ピース・シーズとは▽

平和や命の大切さをいろんな視点から捉え、広げていく「種」が「ピース・シーズ」です。世界中に笑顔の花をたくさん咲かせるため、小学6年から高校3年までの44人が、自らテーマを考え、取材し、執筆していきます。

第2号

留学生 × ヒロシマ

世界の声 共通点と温度差と



留学生
語る



米国から

ジョナサン・バルリヤさん(17)



原爆は悲しいこと、と感じます。あまり考えたくありません。米国でも、原爆は悲しいこととしてしか教えられませんでした。僕は、原爆がなかったら、そのまま戦争は続いていたと思います。核兵器は悪くありません。抑止力になっていまして、リスクを知っているから実際には誰も使わないでしょう。厳重に管理されているため、テロリストなどに奪われることも考えにくいです。

原爆がなければ戦争は続いた
抑止力になっている



ロシアから

イリナ・エカラコワさん(17)



原爆資料館を見てほしいと
母国で伝えたい

原爆で亡くなった人の大半は普通の人や子どもでした。ロシアに帰ったら、広島に行つて平和記念公園や原爆資料館を見てほしい、と言いたいです。核兵器は事故を起こす可能性があるため保有のリスクがあります。しかし、ロシアだけが核保有をやめた、他の国から攻撃されるかもしれない、怖いのです。全ての国が一度に保有をやめるしか手段はないと思います。立場などが違う人の考え方を理解し、話し合うことが大切です。



フィンランドから

シニ・ニソネンさん(18)



夏に3日間の平和キャンプに参加して被爆者の話を聞いたり、原爆資料館を見学したりしました。原爆も、ヒトラーが率いたナチスによる虐殺も間違いです。間違いを繰り返さないために、今からどうするか、が大切です。私は友だちや家族を広島に連れてきて、原爆資料館を案内したいです。フィンランドには核兵器がありませんが、隣のロシアにはあるのが怖いんです。心配ですが、自分にはどうすることもできません。

原爆もナチスも間違い
今からどうするか、が大切



ドイツから

マイクバネッサ・チェアナイさん(16)



ドイツでは、16、17歳の時に、学校で「ユダヤ人大虐殺をしたナチスについて学びます。実際にアウシュビッツ強制収容所に行ったり、当時の話を聞いたりします。しかしヒロシマの情報は乏しいのが実情。広島は原爆の影響で今も放射線量が高いと誤解している人もいます。きちんと事実を伝えたいです。ただ、核兵器は本当に要らない、とゼロにするのは難しいと思います。「使つてはいけない」と言い続けるしかありません。

核兵器ゼロは困難
使つては駄目と言うしか…



タイから

ナッタワディー・ジャンモーさん(16)



被爆体験に衝撃
忘れてはならない

破壊された街、放射性物質を含んだ黒い雨。広島に来て、原爆の被害状況や被爆者の体験談を聞いて、ショックを受けました。タイに帰ったら、ここで学んだ事実を友だちや家族に伝えたいです。過去と同じ過ちを繰り返さないために、ヒロシマのことを忘れてはなりません。そして、自分の考えにとらわれないで、他人の考えもよく聞く必要があります。

「核兵器は悪くない」はショック。廃絶、諦めずに

■戦争をしてはいけない、という考えはみんな一緒だと知りました。自分と自分の周りの人を大切にすることも、僕もいつか海外に出て、国が違っても思いは同じ、と伝えます。(中1 川岸 悠)

■核保有国の留学生から、核兵器について「悪くない」とか知らない「興味ない」という意見が出て、正直ショックでした。広島に来たら何か感じることがあるはずなのに、事故のリスクを感じているなら、もっと関心を持ち、なくそうとする意識があってもいいんじゃないかと思いました。(中1 鬼頭 里歩)

■ロシアやカザフスタンは5月1日が「平和の日」だそうです。日本も「平和の日」をつくって、世界のいろいろな国の歴史や課題を調べ、学校などで発表したらどうでしょうか。その国の戦争や核への考え方も学べて、平和について考えられるようになるはず。(中3 坪木 菜里佳)

■広島は放射線量が今も高い、といった誤解が起きないよう、他国の人ももっと交流するなどして事実を伝えていきたいです。(高1 山下 未来)

■広島が原爆でどんな被害を受けたか外国ではあまり教えられていないのを聞いて残念でした。海外でヒロシマや平和を訴えていくためには、国外だけでなく国内の人にも、もっとヒロシマを知ってもらいたいです。8月6日には多くの人が広島に来ます。その時に、僕たちがジュニアライター活動で学んだことを発表する機会がほしいです。(高1 中原 維新)

■核兵器は悪くない、とか世界平和の実現は難しいという意見が出ました。諦めるのではなく、一人一人が、戦争はいけない、命を大切にしなければいけない、と思えば、状況も少しずつ変わるのではないのでしょうか。(高1 新本 悠花)

ジュニア
ライター
感想

日本の校則「厳しい」

留学生、学校生活の印象

留学生6人は、広島、廿日市、東広島3市の高校に通っています。後はボランティアやクラブ活動です。母国より校則が厳しく感じている様子。「髪形や髪の色に制限があり、ピアスもダメ。驚いた」「(ニソネンさん)「カラオケ音楽部に所属するバルリヤさんは「米国の学校より、みんなまじめにやっている」。ナッタワディーさんは「日本の文化を学べる」と剣道部で頑張る日々です。授業の印象は「先生だけがずっと話している。生徒が眠くなるのがよく分かる」(チェアナイさん)「日本はただ聞くだけ。カザフスタンは新しいことを学んだ後、すぐにテストがある」(ボラさん)「長い。ロシアでは午